

【3つのやり方に共通部分】 ‹‹ 「確」 で説明します。 ››		
① 総画数を確認する。(15) ② 書き始め(一画目)と書き終わり(終筆)を確認する。 ③ マス目を分けて、考える。⇒ 「確」は、(たてに二分割)です。 ④ 部品に分けて、考える。⇒ 「石」と「フ」と「隹」の3つです。		
(ア) 書き順で覚える。	(イ) 部首を使って覚える。	(ウ) 自分で付けた名前前で覚える。
		
① 「イチ、ニー、サン、シー、ゴ」で「石」までを書く。 ② 「ロク、ナーナ」で、「隹」までを書く。 ③ 「ハチ、キュウ、ジュウ、ジュウイチ、ジュウニ、ジュウサン、ジュウシ、ジュウゴ」で、「確」までを書く。	「石」は(いしへん)、 「隹」は(わかんむり)、 「フ」は(ふるとり)という部首です。 次の言葉を言いながら、書いて覚えます。 「いしへんに、わかんむり、ふるとり書いて、‹‹ 確 ››できた。」	基本的に、自分で名前を付ければよいのですが、例として、次のように付けてみてはどうでしょうか。 「石を小さく、フを書いて、三階建てのビルを書く。 あっという間に‹‹ 確 ››できた。」 (ふるとりを「三階建てのビル」としました)

(3) 記憶に残すために

- ① 何度も言って書いて覚える。 ⇒ 繰り返すことで記憶に残ります。
- ② つなぎ覚えをする。 ⇒ 他の内容とつなげると、記憶に定着しやすい。
 - ・熟語(正確、確実、明確など)、訓読み(確かめる)を書いて練習。
 - できれば、熟語の意味調べ、短文作りをするとよい。
 (正しい文かどうかを見てもらうとよい—親さんか先生に)
- ③ 確かめをする。 ⇒ ドリルの「書く」が書けるかどうか、書いてみる。